

飛鳥 高等学校 令和8年度（1年次用） 教科 家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭 科目： 家庭基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1年次 1組～ 6組

使用教科書：（ 実教出版 図説 家庭基礎 ）

教科 家庭科

の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標：

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働しよりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>A 学校家庭クラブ活動とホームプロジェクト</p> <p>【知識・理解】 家庭生活における探究心を養う。【思考・判断・表現】 生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。【学びに向かう力、人間性等】 身近な人と協働し、家庭生活の向上に向けて主体的に関わりようとする実践的な態度を養う。家庭生活を主体的に営む態度を育成する。</p> <p>B 自分らしい生き方</p> <p>【知識及び技能】 人の一生について、ライフステージとそれぞれの発達課題を理解し、自らの一生を考える。【思考、判断、表現】 自らの置かれているライフステージを理解し、将来につなげるための学びの内容を具体化する。【学びに向かう力、人間性等】 自己の進路を真剣に考え、高校生のうちにすべき具体的な目標を立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動 ・ライフステージと発達課題 ・青年期の課題と自立 ・生活設計 ・家族・家庭 ・民法 ・ジェンダー 	<p>A 【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの意義を理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活を向上させるための企画を具体的に設定できる <p>【主体性・人間性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題設定および計画段階において、家庭生活を向上させる方法を主体的に考え、企画できる。 <p>B 【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階とその過程においての課題を理解できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの進路選択のために、高校時代にすべきことを具体的に考え、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・自らの進路選択を自分事としてとらえ、進路を真剣に考えることができる。 	○	○	○	12
<p>C 衣生活をつくる</p> <p>【知識及び技能】 繊維の種類や特徴、加工法について理解する。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 繊維や布の特徴を理解し、TPOに応じた被服を選択できる力を養う。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 快適な衣生活を営むために、主体的に行動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の役割 ・繊維の種類と特徴 ・繊維から布へ ・被服の管理 	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な衣生活を営むために必要な知識と技能を習得できる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な衣生活を営むために目的に応じた被服を選択することができる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを実生活に生かす方法を考えることができる。 	○	○	○	12
定期考査			○			

飛鳥 高等学校 令和8年度（2年次用） 教科 家庭 科目 フードデザイン基礎2

教科：家庭 科目：フードデザイン基礎2 単位数：2 単位

対象学年組：第2年次 自由選択

使用教科書：（実教出版 フードデザイン）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 時 数
1 学 期	A健康と食生活 B食品と栄養素の関係① C調理の基本 D食品群別摂取量の目安 【知識・理解】 人にとっての食事の意義と役割を理解し、より充実した食生活を営むために必要な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な根拠に基づいて、現代の食生活の課題を見出し、知識をもとに改善する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	A健康と食生活 ・食事の意義と役割 ・食生活の現状と課題 ・食品の選び方 B食品と栄養素の関係① ・炭水化物（米・小麦・いも類） ・炭水化物を多く含む食品の調理性 C調理の基本 ・家庭基礎での学びの復習 ・調理実習 D食品群別摂取量の目安 ・4群分けとその科学的根拠	【知識・技能】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解し、表現できる。 ・料理様式を崩さずに栄養バランスを整えるための思考・判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活をより充実させるために主体的、協働的に取り組むことができる。	○	○	○	24
	定期考査			○			
2 学 期	E食品と栄養素の関係② 【知識・理解】 人にとっての食事の意義と役割を理解し、より充実した食生活を営むために必要な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な根拠に基づいて、現代の食生活の課題を見出し、知識をもとに改善する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	E食品と栄養素の関係② ・たんぱく質と脂質（肉・魚・豆・豆製品・乳・たまご） ・たんぱく質を多く含む食品の調理性 ※上記の内容を講義と実習を通して学ぶ	【知識・技能】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解し、表現できる。 ・料理様式を崩さずに栄養バランスを整えるための思考・判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活をより充実させるために主体的、協働的に取り組むことができる。	○	○	○	28
	定期考査			○			
3 学 期	F食品と栄養素の関係③ Gテーブルマナー 【知識・理解】 人にとっての食事の意義と役割を理解し、より充実した食生活を営むために必要な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な根拠に基づいて、現代の食生活の課題を見出し、知識をもとに改善する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	F食品と栄養素の関係③ ・無機質とビタミン（野菜・果物） ・無機質とビタミンを多く含む食品の調理性 ※上記の内容を講義と実習を通して学ぶ Gテーブルマナー	【知識・技能】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解し、表現できる。 ・料理様式を崩さずに栄養バランスを整えるための思考・判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活をより充実させるために主体的、協働的に取り組むことができる。	○	○	○	18
	定期考査						合計 70

飛鳥 高等学校 令和8年度（2年次用） 教科 家庭 科目 子どもの発達と保育2

教科： 家庭 科目： 子どもの発達と保育2 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 年次 1 組～ 6 組 ※履修生徒のみ

使用教科書：（ 実教出版 保育基礎 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価し、改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 子どもの発達と保育2

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家庭で行う保育と集団保育について学び、保育に係る人々に必要な知識と基本的な技術を学ぶ、身につける	乳幼児の発達段階に応じた環境づくりや遊び、食など多岐にわたり考え、工夫し、仲間と協力してそれを実践できる。保育実習においては該当する保育園の保育士の先生方の様子を観察し、保育士と話し合いながら実習できる。	乳幼児の視点に立ち、親や保育士の視点に立ち「乳幼児の心身の発達を促進する保育」を考え、実践しようとする意欲をもてる。常に、乳幼児の安全に配慮して行動できる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「子どもの心身の発達 ①」 【知識及び技能】 子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】 授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】 子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢が身についた。集団保育と家庭の保育の特徴について理解できた。 【思考・判断・表現】 意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、工夫し、実践できた。 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	22
	B 実習（保育園実習等を含む） 【知識及び技能】 学んだことをもとに、遊びを考えたり、おもちゃ作りをする。 【思考力、判断力、表現力等】 乳幼児の目線にたち、心身の発達に応じた遊びやおもちゃを工夫して考える。乳幼児が安全に遊ぶことができるように工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 必要な材料や道具をそろえることができる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	C 「子どもの心身の発達 ②」 【知識及び技能】 子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】 授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	D 実習（保育園実習等を含む） 【知識及び技能】 学んだことをもとに、遊びを考えたり、おもちゃ作りをする。 【思考力、判断力、表現力等】 乳幼児の目線にたち、心身の発達に応じた遊びやおもちゃを工夫して考える。乳幼児が安全に遊ぶことができるように工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 必要な材料や道具をそろえることができる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			

2 学 期	E「子どもの心身の発達 ③」 【知識及び技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	28
	C「子どもの心身の発達 ②」 【知識及び技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			
3 学 期	G「子どもの心身の発達 ④」 【知識及び技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	20
	H実習（保育園実習等を含む） 【知識及び技能】学んだことをもとに、遊びを考えたり、おもちゃ作りをする。 【思考力、判断力、表現力等】乳幼児の目線にたち、心身の発達に応じた遊びやおもちゃを工夫して考える。乳幼児が安全に遊ぶことができるように工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】必要な材料や道具をそろえることができる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）				
	定期考査			○			70

飛鳥 高等学校 令和8年度（2年次用） 教科 家庭 科目 ファッション造形基礎2

教科： 家庭 科目： ファッション造形基礎2 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2年次 1組～ 6組 ※履修生徒のみ

使用教科書：（ 実教出版 ファッション造形基礎 ）

教科 家庭

の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価し、改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 ファッション造形基礎2 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
被服製作に必要な基礎的な知識と技術の習得。作業の安全と効率を考えながら製作に取り組む態度。製作する先品を工夫し「見せる作品作り」ができる技術の習得。	学んだ知識と技術をもとに、個性を生かし製作をすることができる。仲間と協力して、テーマに沿ったファッションショーと展示の準備（表現）ができる。	授業やファッションショーの準備に意欲的に参加し、作業の安全と作業効率を考えて製作に取り組む。授業準備・後片付け時のミシンや針の確認もできる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「製作を始めるにあたって」 【知識及び技能】 用具・型紙などの名称と使い方を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 作業の安全と作業効率について考えながら作業する必要性を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 意欲的に学び、作業を進めるために何を準備すべきなのかを考えることができる。	・用具の説明 ・道具の使い方 ・作業の安全と効率 ・型紙の選び方（型紙の作り方） ・生地を選び方 ・作業時の被服室の使い方 ・教科書、筆記用具など	【知識・技能】 用具・型紙などの名称と使い方を習得できた。 【思考・判断・表現】 作業の安全と作業効率について考えながら作業する必要性を理解し、注意を考えながら、注意しながら作業を進めることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 意欲的に学ぼうとしている。作業を進めるために何を準備すべきなのかを考え、準備できた。	○	○	○	22
	B 「世界の衣装（正装）・日本の衣装」 【知識及び技能】 文化による衣服の違い、日本の伝統的な衣服と洋服の構成上の違いを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 反物の幅と洋服用の生地の幅の違いから、それぞれの衣服の構成と特徴を考えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の衣装（正装）とその歴史や、日本の伝統的な衣服、近年の衣服などに興味関心をもつ。	・生地、型紙 ・裁縫道具 ・ミシン、ロックミシン ・糸 ・教科書、筆記用具など	【知識・技能】 文化による衣服の違い、日本の伝統的な衣服と洋服の構成上の違いを理解できた。 【思考・判断・表現】 文化による衣服の違い、日本の伝統的な衣服と洋服の構成上の違いを理解する。 【主体的に学習に取り組む態度】 世界の衣装（正装）とその歴史や、日本の伝統的な衣服、近年の衣服などに興味関心をもつことができた。それを製作に生かそうとしている。（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	C 製作 【知識及び技能】 安全に効率よく製作を進めるすべを体得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 作業の安全と作業効率を考えながら、作業に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 必要な生地などの材料、用具や道具を自ら揃え、意欲的に作業に取り組む姿勢を身につける。	・生地、型紙 ・裁縫道具 ・ミシン、ロックミシン ・糸 ・教科書、筆記用具など	【知識・技能】 安全に効率よく製作を進めることができている。 【思考・判断・表現】 自分の個性を生かしながら、製作に取り組み、作業の安全と作業効率を考えながら作業できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 必要な生地などの材料、用具や道具を自ら揃え、意欲的に作業に取り組むことができている。（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			
2	D ファッションショーに向けて 【知識及び技能】 効果的な作品の展示とファッションショー（構成など）の基礎を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 意見を出し合い、協力して効果的な展示の方法とファッションショーの構成を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 意欲的に製作の仕上げをし、展示・ファッションショーの準備に取り組む、全員で協力できる。	・生地、型紙 ・裁縫道具 ・ミシン、ロックミシン ・糸 ・教科書、筆記用具など ・ハンガー、LEDライト ・装飾（音響・ライト含む）など	【知識・技能】 効果的な作品の展示とファッションショー（構成など）の基礎を学び、実現に向けて努力した。 【思考・判断・表現】 意欲的に意見を出し、仲間の意見も取り入れ、協力して効果的な展示の方法とファッションショーの構成を考え、実践できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 意欲的に製作の仕上げをし、展示・ファッションショーの準備に取り組み、仲間と協力して「展示」「ファッションショー」を行った。	○	○	○	

飛鳥 高等学校 令和8年度（3年次用） 教科 家庭 科目 フードデザイン基礎3

教科：家庭 科目：フードデザイン基礎3 単位数：2 単位

対象学年組：第3年次 自由選択

使用教科書：（実教出版 フードデザイン）

教科 家庭 の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 フードデザイン の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A健康と食生活 B食品と栄養素の関係① C調理の基本 D食品群別摂取量の目安 【知識・理解】 人にとっての食事の意義と役割を理解し、より充実した食生活を営むために必要な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な根拠に基づいて、現代の食生活の課題を見出し、知識をもとに改善する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	A健康と食生活 ・食事の意義と役割 ・食生活の現状と課題 ・食品の選び方 B食品と栄養素の関係① ・炭水化物（米・小麦・いも類） ・炭水化物を多く含む食品の調理性 C調理の基本 ・家庭基礎での学びの復習 ・調理実習 D食品群別摂取量の目安 ・4群分けとその科学的根拠	【知識・技能】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解し、表現できる。 ・料理様式を崩さずに栄養バランスを整えるための思考・判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活をより充実させるために主体的、協働的に取り組むことができる。	○	○	○	24
	定期考査			○			
2 学期	E食品と栄養素の関係② 【知識・理解】 人にとっての食事の意義と役割を理解し、より充実した食生活を営むために必要な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な根拠に基づいて、現代の食生活の課題を見出し、知識をもとに改善する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	E食品と栄養素の関係② ・たんぱく質と脂質（肉・魚・豆・豆製品・乳・たまご） ・たんぱく質を多く含む食品の調理性 ※上記の内容を講義と実習を通して学ぶ	【知識・技能】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解し、表現できる。 ・料理様式を崩さずに栄養バランスを整えるための思考・判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活をより充実させるために主体的、協働的に取り組むことができる。	○	○	○	28
	定期考査			○			
3 学期	F食品と栄養素の関係③ Gテーブルマナー 【知識・理解】 人にとっての食事の意義と役割を理解し、より充実した食生活を営むために必要な知識を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】 科学的な根拠に基づいて、現代の食生活の課題を見出し、知識をもとに改善する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	F食品と栄養素の関係③ ・無機質とビタミン（野菜・果物） ・無機質とビタミンを多く含む食品の調理性 ※上記の内容を講義と実習を通して学ぶ Gテーブルマナー	【知識・技能】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解できる。 【思考・判断・表現】 ・人にとっての食事の役割、おいしさを感じる要素を理解し、表現できる。 ・料理様式を崩さずに栄養バランスを整えるための思考・判断ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・食生活をより充実させるために主体的、協働的に取り組むことができる。	○	○	○	18
	定期考査						合計 70

飛鳥 高等学校 令和8年度（3年次用） 教科 家庭 科目 生活と福祉

教科： 家庭 科目： 生活と福祉 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 年次 自由選択

使用教科書： (実教出版 生活と福祉)

教科 家庭科 の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、生活の質の向上と社会の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】 生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生活産業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、生活の質の向上と社会の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 生活と福祉 の目標： 家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うことなどを通して、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
高齢者の健康と生活、介護などについて体系的・系統的に理解すると思の、関連する技術を身につけるようにする。	高齢者の健康と生活、介護などに関する課題を発見し、高齢者の自立生活支援と福祉の充実を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	家族や地域の人々の豊かな生活の実現を目指して自ら学び、高齢者の生活の質の向上と自立生活支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
現代の社会福祉 車いす操作・ベッドメイキング 【知識及び技能】 車いすの基本的な操作方法、ベッドメイキングの方法とその必要性、留意点を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 車いすの操作、ベッドメイキングを手際よくできる。 【学びに向かう力、人間性等】 介護される側の気持ちを想像し、行動できる。	【車いす】 各部分の名称・機能 安全な乗り方 【ベッドメイク】 衛生的で褥瘡になりにくいシーツの敷き方、たたみ方	【知識・技能】 安全な車いすの操作方法を理解し、その通りにできる。シーツ交換の方法とその意義を理解し、快適なベッドメイクができる。 【思考・判断・表現】 (年間通して) 介護に適した服装、髪形ができています。車いすの操作時、ベッドメイクにおいて、安全で衛生的な方法を臨機応変に判断し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護される人の気持ちを考えた行動ができる。	○	○	○	8
安楽な体位・褥瘡 移動援助① 【知識及び技能】 安楽な体位への変更方法、褥瘡の原因と予防方法を理解できる。 【思考力、判断力、表現力等】 負担の無い安楽な体位への変更を、手際よくできる。 【学びに向かう力、人間性等】 介護される側の気持ちを想像し、行動できる。	【褥瘡】 褥瘡ができる原因とその予防法 【安楽な体位】 ・基本体位とその特徴 ・寝たきりの方の姿勢の交換方法	【知識・技能】 褥瘡の出来る原因とその予防方法を理解できる。体位の変換の必要性とその方法を理解できる。 【思考・判断・表現】 介護に適した服装、髪形ができています。介護される人の状態を考えた体位変換ができています。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護される人の気持ちを考えた行動ができる。	○	○	○	8
移動援助② 高齢者疑似体験 施設見学 車いす体験 【知識・技能】 高齢者の疑似体験、車いすでの外出、施設の見学を通して世の中のバリアを知る。 【思考・判断・表現】 身体的な不自由を抱える人の介助を通して、安全な移動方法を考え判断することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護される人の気持ちを考え、誠実に行動できる。	【高齢者介護施設の見学】 【車いす体験】 車いすへの移乗方法 車いすでの一般道路の進行方法 【高齢者疑似体験】 高齢者の心身の変化 指先、耳の聞こえ方、視力、筋力等	【知識・技能】 車いすが必要な方を安全にベッドから車いすへと移動させることができる。 【思考・判断・表現】 世の中の物理的なバリアを知り、それらを作らない方法を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 車いすが必要な人の立場になり、バリアを作らない方法を積極的に考えている。	○	○	○	8
定期考査						

2 学 期	施設見学 入浴援助 健康チェック・部分浴 着脱援助	【施設見学】 機械浴の介助、浴槽の種類、入浴 前後のケア 【入浴援助】 部分浴の目的と注意点 着脱の方法（半身麻痺等）と服装 の工夫	【知識・技能】 入浴の目的について理解し、適切な部分浴をさ せることができる。 【思考・判断・表現】 麻痺のある方の可動域を考え、無理のない着脱 ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 麻痺のある場合の着脱法を積極的に考えられ る。	○	○	○	14
	認知症 排泄援助 虐待 言語・聴覚・視覚障害	【認知症・虐待】 認知症の種類と特徴 周囲の人のかかわり方 虐待の種類と内容 【排泄援助】 ベッド上での排泄援助 おむつ交換の方法と留意点 【障害】 言語・聴覚・視覚障害の体験、解 除方法	【知識・技能】 認知症の種類と特徴、虐待の種類、排泄の仕組 みと課題を理解できる。 【思考・判断・表現】 認知症の種類と特徴を理解したうえで、適切な かかわり方を考えることができる。 排泄について、介護される人の気持ちを理解し た声掛け、対応を考えて実行できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 介護される人の気持ちを考え、周囲に配慮がで きる。	○	○	○	14
3 学 期	食事援助について	補助食器の種類と使い方 嚥下困難な方の食事補助について	【知識・技能】補助食器の種類と特徴、使い方 を理解できる。	○			18
	1年間のまとめ	1年間の振り返り					合計 70

飛鳥 高等学校 令和8年度（3年次用） 教科 家庭 科目 子どもの発達と保育3

教科： 家庭 科目： 子どもの発達と保育3 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 年次 1 組～ 6 組 ※履修生徒のみ

使用教科書：（ 実教出版 保育基礎 ）

教科 家庭

の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 子どもの発達と保育3 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
家庭で行う保育と集団保育について学び、保育に係る人々に必要な知識と基本的な技術を学ぶ、身につける	乳幼児の発達段階に応じた環境づくりや遊び、食など多岐にわたり考え、工夫し、仲間と協力してそれを実践できる。保育実習においては該当する保育園の保育士の先生方の様子を観察し、保育士と話し合いながら実習できる。	乳幼児の視点に立ち、親や保育士の視点に立ち「乳幼児の心身の発達を促進する保育」を考え、実践しようとする意欲をもてる。常に、乳幼児の安全に配慮して行動できる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「子どもの心身の発達 ①」 【知識及び技能】子どもの心身の発達を発展的に学習し、集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲をもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢が身についた。集団保育と家庭の保育の特徴について理解できた。 【思考・判断・表現】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、工夫し、実践できた。 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	22
	B 実習（保育園実習等を含む） 【知識及び技能】学んだことをもとに、遊びを考えたり、おもちゃ作りをする。 【思考力、判断力、表現力等】乳幼児の目線にたち、心身の発達に応じた遊びやおもちゃを工夫して考える。乳幼児が安全に遊ぶことができるように工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】必要な材料や道具をそろえることができる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	C 「子どもの心身の発達 ②」 【知識及び技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲をもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	D 実習（保育園実習等を含む） 【知識及び技能】学んだことをもとに、遊びを考えたり、おもちゃ作りをする。 【思考力、判断力、表現力等】乳幼児の目線にたち、心身の発達に応じた遊びやおもちゃを工夫して考える。乳幼児が安全に遊ぶことができるように工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】必要な材料や道具をそろえることができる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			

2 学 期	E「子どもの心身の発達 ③」 【知識及び技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・絵本・紙芝居 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	28
	C「子どもの心身の発達 ②」 【知識及び技能】子どもの心身の発達に興味をもち、学ぶ姿勢を身につける。集団保育と家庭の保育の特徴について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、実践できる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			
3 学 期	G「学習のまとめ」 【知識及び技能】1年間学んだ内容全体を理解する。将来に活かす知識と技能を身につける。 【思考力、判断力、表現力等】意欲的に学び、幼児期の子どもの心身の発達に合わせた保育と遊びについて考え、進路実現に活かすことができる。 【学びに向かう力、人間性等】授業や実習に参加し、乳幼児の安全を考えた保育を行う意欲がもてる。	・教科書 ・筆記用具 ・プリント ・折り紙、画用紙 ・フェルト ・裁縫道具 など	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	20
						合計	70

飛鳥 高等学校 令和8年度（3年次用） 教科 家庭 科目 ファッション造形基礎3

教科： 家庭 科目： ファッション造形基礎3 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3年次 1組～ 6組 ※履修生徒のみ

使用教科書：（ 実教出版 ファッション造形基礎 ）

教科 家庭

の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 ファッション造形基礎3 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
被服製作に必要な基礎的な知識と技術の習得。作業の安全と効率を考えながら製作に取り組む態度。製作する先品を工夫し「見せる作品作り」ができる技術の習得。	学んだ知識と技術をもとに、個性を生かし製作をすることができる。仲間と協力して、テーマに沿ったファッションショーと展示の準備（表現）ができる。	授業やファッションショーの準備に意欲的に参加し、作業の安全と作業効率を考えて製作に取り組む。授業準備・後片付け時のマシンや針の確認もできる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 「製作を始めるにあたって」 【知識及び技能】 用具・型紙などの名称と使い方を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 作業の安全と作業効率について考えながら作業する必要性を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 意欲的に学び、作業を進めるために何を準備すべきなのかを考えることができる。	・用具の説明 ・道具の使い方 ・作業の安全と効率 ・型紙の選び方（型紙の作り方） ・生地を選び方 ・作業時の被服室の使い方 ・教科書、筆記用具など	【知識・技能】 用具・型紙などの名称と使い方を習得できた。 【思考・判断・表現】 作業の安全と作業効率について考えながら作業する必要性を理解し、注意を考えながら、注意しながら作業を進めることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 意欲的に学ぼうとしている。作業を進めるために何を準備すべきなのかを考え、準備できた。	○	○	○	22
	B 製作 【知識及び技能】 安全に効率よく製作を進めるすべを体得させる。 【思考力、判断力、表現力等】 作業の安全と作業効率を考えながら、作業に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 必要な生地などの材料、用具や道具を自ら揃え、意欲的に作業に取り組む姿勢を身につける。	・生地、型紙 ・裁縫道具 ・マシン、ロックマシン ・糸 ・教科書、筆記用具など	【知識・技能】 安全に効率よく製作を進めることができています。 【思考・判断・表現】 自分の個性を生かしながら、製作に取り組み、作業の安全と作業効率を考えながら作業できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 必要な生地などの材料、用具や道具を自ら揃え、意欲的に作業に取り組むことができています。（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			
2 学 期	D ファッションショーに向けて 【知識及び技能】 効果的な作品の展示とファッションショー（構成など）の基礎を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 意見を出し合い、協力して効果的な展示の方法とファッションショーの構成を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 意欲的に製作の仕上げをし、展示・ファッションショーの準備に取り組む、全員で協力できる。	・生地、型紙 ・裁縫道具 ・マシン、ロックマシン ・糸 ・教科書、筆記用具など ・ハンガー、LEDライト ・装飾（音響・ライト含む）など	【知識・技能】 効果的な作品の展示とファッションショー（構成など）の基礎を学び、実現に向けて努力した。 【思考・判断・表現】 意欲的に意見を出し、仲間の意見も取り入れ、協力して効果的な展示の方法とファッションショーの構成を考え、実践できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 意欲的に製作の仕上げをし、展示・ファッションショーの準備に取り組む、仲間と協力して「展示」「ファッションショー」を行った。	○	○	○	28
	E ファッションショーを終えて 【知識及び技能】 学んだことを生かし、今年度の展示やファッションショーを振り返り、工夫・改善すべき点を見つけ、次の製作に取り組む。 【思考力、判断力、表現力等】 お互いを認め合い、次年度に向けて製作等に必要なることを見出し、次の製作に取り組む意欲をもつ。 【学びに向かう力、人間性等】 次に自分が何をすべきなのかを考え、準備を始める。	・生地、型紙 ・裁縫道具 ・マシン、ロックマシン ・糸 ・教科書、筆記用具など ・当日の映像など	【知識・技能】 学んだこと、経験したことを活かして、次の作品製作につなげることができた。 【思考・判断・表現】 製作や展示、ファッションショーの内容について、仲間と前向きに話し合い、検討しあうことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 次の製作に意欲がもてた。製作の準備をすぐに進めることができた。（出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する）	○	○	○	
	定期考査			○			

3 学 期	F 製作 【知識及び技能】今年度最後の作品製作に取り組む 【思考力、判断力、表現力等】自分の個性や表現したい内容を、この「作品製作」で形にすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】臆することなく作品の中に個性や表現したい内容を実践するための技法を意欲的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・生地、型紙 ・裁縫道具 ・ミシン、ロックミシン ・糸 ・教科書、筆記用具など 	<p>【知識・技能】今までの製作で習得した技術を生かして、次の製作に取り組むことができている。(ワンステップアップ)</p> <p>【思考・判断・表現】自分が作りたい作品についてや、製作途中の課題を的確に言葉で表現できるようになった。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】作品の製作に意欲的に取り組んでおり、完成することができた。(出欠や授業準備、片付けなどの状況も加味する)</p>	○	○	○	20
							合計
							70